



## 循環型社会

主に貢献するSDGs



限られた地球環境資源を守るため、3Rの考え方に基づき廃棄物削減に向けた取り組みを行っています。商品の設計から廃棄に至るライフサイクル全般で、環境に配慮したさまざまな施策を展開しています。

### プラスチック資源循環に関する取り組み

海に大量に流入するプラスチックごみによる海洋汚染が世界的な問題となっています。明治グループではこの海洋プラスチック問題に対する取り組みも進めています。食品セグメントでは「プラスチック資源循環アクション宣言」を策定し、プラスチック製容器包装およびPETボトルの軽量化・薄肉化を促進するなど、使用量削減に向けた商品設計を推進しています。また、生産過程において発生する廃棄プラスチックは、再生処理事業者を通じて再生品へのリサイクルを促進しています。さらに河川や海岸などの清掃活動を通じて、地域の環境美化や海洋に流入するプラスチックごみの低減を図るなど、海洋環境の保全に努めています。



ボトルの薄肉化を進めている「明治プロバイオビットR-1ドリンクタイプ」

## 水資源

主に貢献するSDGs



明治グループの事業運営において水資源は不可欠であり、持続可能な社会の実現に向けて水資源の管理はきわめて重要なテーマです。水の効率的な使用や節水に配慮した設備の導入を図るとともに、排水の水質管理についても徹底しています。水リスク対策については、事業運営への影響を把握するため、世界資源研究所 (WRI) が発表した「AQUEDUCT」を用いた国内外の全生産系事業所の調査や現地へのヒアリングを進めています。今後はリスクのある拠点の特定を進め、具体的な対策を立案・実行していきます。

### 2018年度水使用量



(国内)  
集計対象範囲はP77に記載しています。  
☑の付された数値は第三者保証を受けています。  
(海外)  
海外生産系 12工場を集計しています。

### 取水について

明治グループでは節水活動に継続して取り組み、水の循環利用に努めています。一部の事業所では雨水をトイレ用水に活用するほか、冷却水を再利用するなど、水の有効活用に取り組んでいます。

### KMバイオロジクス(株)における水田湛水活動

KMバイオロジクス(株)では製品の生産に地下水を使用しており、環境負荷軽減活動の一環として水田湛水活動を行っています。水田から転用されている畑に対し、作物を植え付ける前の約3カ月間、近くを流れる白川より取水した農業用水を湛水し、地下水の涵養を行っています。この取り組みは2005年より継続し、本社および熊本工場で使用される地下水の量よりも多い年間約50万トンもの水を涵養しています。



湛水田の様子